歴史総合-DX

**1953年②（昭和28）　朝鮮戦争の休戦**

1950年（昭和25）6月にソ連の暗黙の了解のもと、北朝鮮の軍隊が38度線を南進して韓国に侵攻して朝鮮戦争が始まった。3日後にソウルが陥落し、やがて釜山（プサン）周辺まで迫り、開戦3日後の国連決議を根拠に米軍を中心とする16か国（英仏と両国系のカナダ・ベルギーなど）から成る国連軍が、韓半島の西側から仁川 （インチョン）に上陸して戦局を逆転した国連軍が、半島統一に迫る勢いで北朝鮮軍を中朝国境にまで追い詰めると、危機 感を抱いた中国軍が1950年（昭和25）10月に義勇軍の名目で参戦すると、戦局は新たな局面入りとなった。11月から中国軍の大規模な抗戦があり、12月に韓国政府は40万の国民防衛軍を投入し、米ソのジェット機が空中戦を行った東西陣営の代理戦争は、膠着状態 の長期戦の様相を帯び、やがて38度線維持を12月に厳命していたトルーマン大統領と中国軍への原爆投下を主張するマッカーサー司令長官の確執が表面化した。マッカーサーは1951年（昭和26）4月に罷免され、開戦1周年を経た1951年（昭和26）7月に38度線の南の開城（ケソン）で休戦の予備交渉がなされたが不調に終わった。その後、国連で中国非難決議案、対中禁輸も行われたが、開戦から3年目の1953年（昭和28）7月27日 に北緯38度線の南5キロにある板門店で北朝鮮・中国・国連の休戦の同意が成立した。朝鮮半島が戦場と化した国際紛争は双方で560万人の戦闘員が参戦、民間人も含む約300万人が死亡し、中国側では毛沢東の息子も戦死した東西大国の代理戦争の朝鮮動乱はようやく休戦という形で一応の平和を回復した。